

# ツール・ド・おおすみボランティアの参加動機とイベントコミットメント

北村尚浩\*, 坂口俊哉\*, 隅野美砂輝\*, 黒川剛\*

## はじめに

ツール・ド・おおすみサイクリング大会は、鹿屋市市制60周年を記念して2001年に第1回大会が開催され、現在では、大隅半島を広域活用するサイクリングイベントとして定着している（ツール・ド・おおすみホームページ）。2018年11月24日、25日に開催された第18回大会は2日間で4つのコース（SPコース約30km, Sコース約150km, Aコース約110km, Bコース約70km）が設定され、延べ489人が参加した。実行委員会が地域の組織・団体に協力を依頼し、約200名のボランティアが運営に携わっている。本稿では同大会の運営を支えるボランティアについて、その参加動機とイベントに対するコミットメントを報告する。

## 方法

### 1) データの収集

2018年11月25日、26日に鹿児島県鹿屋市霧島ヶ丘公園をスタート・ゴールとして開催された「第18回ツール・ド・おおすみサイクリング大会」のボランティアを対象として、質問紙調査を行なった。実行委員会に対して質問紙の配布、回収を依頼するとともにGoogle フォームを利用してインターネットでも同じアンケートを行なった。インターネットアンケートのアドレス（URL）も、実行委員会を通してボランティアに通知した。調査内容は、①個人的属性、②ボランティア参加回数、③参加動機、④イベント・コミットメントなどに関する項目である。72名のボランティアから回答が得られ、個人的属性及び参加動機、イベントコミットメントの各項目に欠損値のない67名を分析対象とした。

### 2) 分析方法

まず、全体の傾向を把握するために全項目について単純集計を行なった。参加動機、イベントコミットメントに関する項目は、いずれも「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらでもない」「ややあ

てはまる」「あてはまる」の5段階のリッカーとタイプライ尺で測定され、5段階評定順に1から5までの得点を与え間隔尺度を構成するものと仮定して数値化し、各項目の平均値を算出した。次に、性別、居住地別、年代別で参加動機、イベントコミットメントの各項目の平均値を算出して比較した。有意差の検定にはt検定及び一元配置分散分析を用い、分析にはIBM SPSS Statistics 25を利用した。

## 結果

### 1) サンプルの属性（表1）

表1 サンプルの属性

		n	%
性別	男性	56	83.6
	女性	11	16.4
年代	20歳代以下	34	50.7
	30歳代	13	19.4
	40歳代	12	17.9
	50歳代以上	8	11.9
居住地	鹿屋市	59	88.1
	鹿屋市以外	8	11.9
回数	初めて	27	40.3
	2回目	10	14.9
	3回目以上	30	44.8

男性が56人（83.6%）、女性が11人（16.4%）で男性が多いサンプルとなった。また平均年齢は33.1±13.4歳で、最年少は18歳、最年長は76歳である。年代別にみると20歳代以下が50.7%（n=34）と半数を占め、ついで30歳代（19.4%）、40歳代（17.9%）、50歳代以上（11.9%）と若い年代が多く、居住地は鹿屋市居住者が88.1%に達している。ツール・ド・おおすみでのボランティア経験回数は3回以上の者が44.8%と半数近くにのぼり、2回目の者が14.9%、初めて参加する者が40.3%であった。

\*生涯スポーツ実践センター

## 2) 参加動機

表2 ボランティア参加動機

	mean	S.D.
<b>【社会貢献】</b>		
ボランティア活動に興味がある	3.58	1.16
活動を通して社会の役に立ちたい	3.70	1.19
他の人の役に立ちたい	3.81	1.08
イベント運営に役立ちたい	3.75	0.99
イベントを盛り上げたい	3.72	1.20
<b>【スポーツ】</b>		
身につく技術や技能が得られる	3.22	1.13
スポーツに関心がある	3.84	1.19
スポーツ活動を支援したい	3.84	1.08
自分の知識や経験を生かしたい	3.51	1.16
スポーツイベントに興味がある	3.75	1.20
<b>【自己成長】</b>		
新しい知識や経験を得たい	3.40	1.28
多くの人と出会いたい	3.54	1.25
社会的な視野を広げたい	3.66	1.16
自分自身が成長したい	3.66	1.15
<b>【個人的興味】</b>		
余暇時間を有効に活用したい	3.15	1.25
ストレス解消になる	2.51	1.27
気分転換になる	3.00	1.26
<b>【参加者支援】</b>		
参加者に関心がある	3.43	1.22
自転車に関心がある	3.54	1.28
参加者と交流できる	3.60	1.16
参加者の活動を支援したい	3.76	1.12
<b>【報酬】</b>		
何らかの報酬を得たい	2.39	1.33
記念品などがもらえる	2.36	1.35
他の人から認められたい	2.42	1.33
<b>【依頼】</b>		
実行委員会から依頼された	3.37	1.37
知人や友人に強く頼まれた	2.93	1.42

参加動機に関する項目の平均値を表2に示している。最も高い値を示したのは、「スポーツに関心があるから」と「スポーツ活動を支援したいから」(3.84)で、ついで「他の人の役に立ちたいから」(3.81)、「参加者の活動を支援したいから」(3.76)、「イベント運営に役立ちたいから」「スポーツイベントに興味があるから」(3.75)、「イベントを盛り上げたいから」(3.72)と続いている。

一方、最も低い値を示したのは、「記念品などがもらえるから」(2.36)で、ついで「何らかの報酬を得たいから」(2.39)、「他の人から認められたいから」(2.42)、「ストレス解消になるから」(2.51)、「知人や友人に強く頼まれたから」(2.93)の順であった。

ボランティアとしての全体の満足度は5点満点中4.10を示し、この大会におけるボランティア活動に対するサンプルの満足度の高さが窺える。

## 3) イベントコミットメント

表3 イベントコミットメント

	mean	S.D.
友人にこのイベントの素晴らしさについて興味を持つように話す	3.67	0.99
このイベントがうまくいくように周囲の期待以上の努力をしている	3.63	1.13
このイベントのメンバーになろうと決めたことをとてもうれしく思う	3.54	0.86
このイベントの活動を継続するためにどんな役割でも引き受ける	3.37	1.03
このイベントのメンバーであることを他の人に話すことが誇りに感じる	3.37	0.98
このイベントはボランティアとしての能力を十分に引き出してくれる	3.37	1.00
このイベントはボランティアとして活動するための最適な団体だ	3.34	0.93
自分とこのイベントの価値観がとてもよく似ていると思う	3.24	1.00
このイベントの将来が本当に気になる	3.13	1.07
このイベントより他のボランティア組織の方が活躍できる(-)	2.88	1.14
このイベントの活動方針にしばしば同意できないことがある(-)	2.79	1.17
漠然とこのイベントに尽くしていても得られることがあまりない(-)	2.78	1.20
このイベントへの愛着心はほとんどない(-)	2.76	1.19
このイベントでボランティアを始めたことは明らかに私の誤りだ(-)	2.76	1.30
このイベントを脱会しようと考えている(-)	2.63	1.17

(-) は逆転項目

サンプルのイベントへのコミットメントを尋ね、数値化して平均値を求めた結果を表3に示している。「このイベントより他のボランティア組織の方が活躍できる」「このイベントの活動方針にしばしば同意できないことがある」「漠然とこのイベントに尽くして

いても得られることがあまりない」「このイベントへの愛着心はほとんどない」「このイベントでボランティアを始めたことは明らかに私の誤りだ」「このイベントを脱会しようと考えている」の6項目は逆転項目であり、点数が低いほどコミットメントが強いと解釈できる。最も高い値を示したのは、「友人にこのイベントの素晴らしさについて興味を持つように話す」(3.67)で、ついで「このイベントがうまくいくように周囲の期待以上の努力をしている」(3.63)、「このイベントのメンバーになろうと決めたことをとてもうれしく思う」(3.54)、このイベントの活動を継続するためにどんな役割でも引き受ける」「このイベントのメンバーであることを他の人に話すことが誇りに感じ

る」「このイベントはボランティアとしての能力を十分に引き出してくれる」(3.37)の順であった。一方、「このイベントを脱会しようと考えている」(2.63)、「このイベントでボランティアを始めたことは明らかに私の誤りだ」「このイベントへの愛着心はほとんどない」(2.76)、「漠然とこのイベントに尽くしていても得られることはあまりない」(2.78)などの項目で低い値を示しているが、平均値の下位6項目はいずれも逆転項目であった。

#### 4) 参加動機の性別, 年齢別, 居住地別による比較 (図1)

参加動機の各項目について男女別に平均値を算出して比較した。いずれの項目においても男女間で有意な

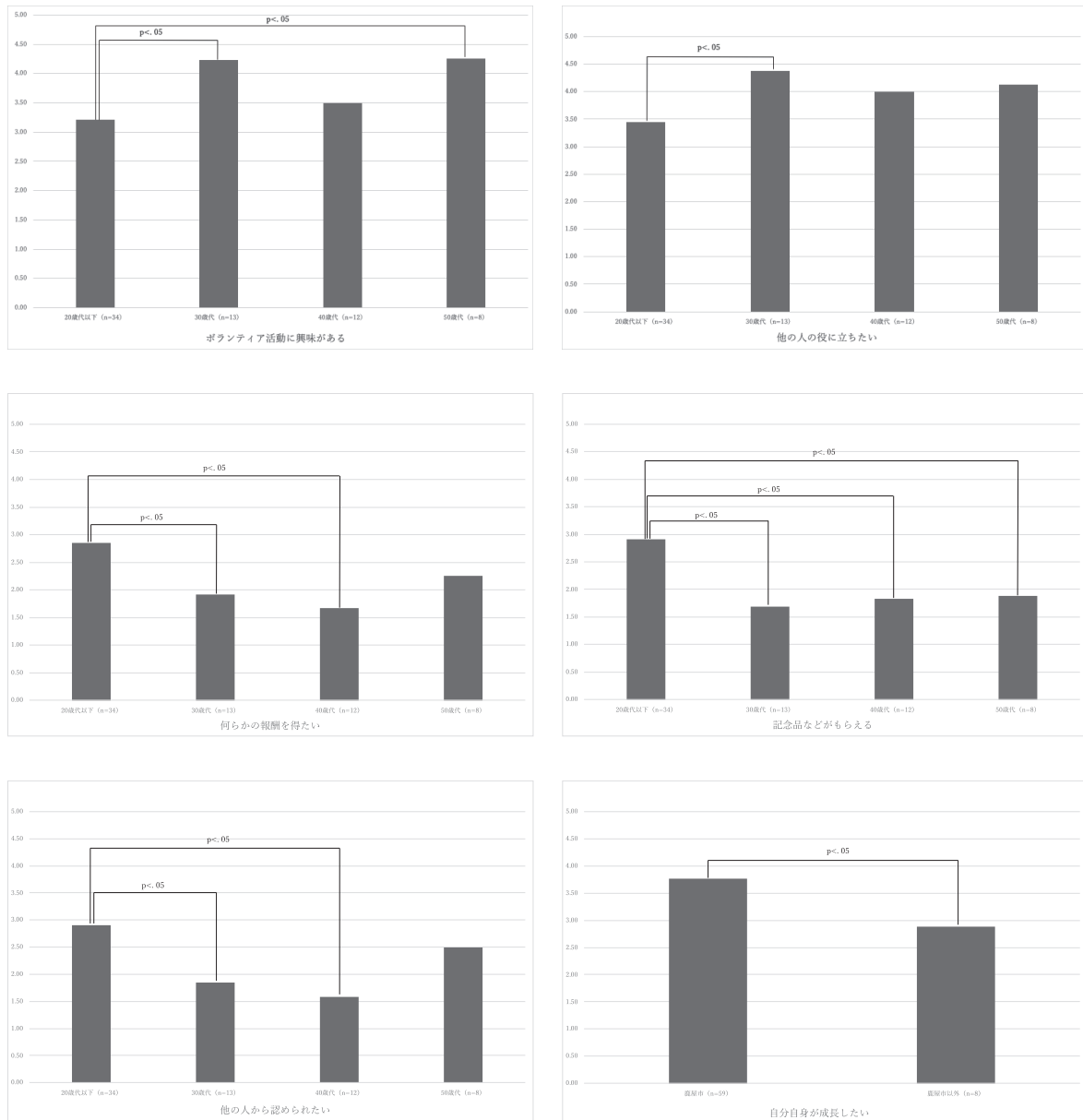


図1 参加動機の性別, 年齢別, 居住地別による比較

差は認められなかったが、報酬や依頼に関する項目では男性の方が女性よりも高く、個人的興味に関する項目では女性の方が男性よりも高い傾向が見られた。

次に、年代間で有意な差が見られたのは、社会貢献に関する「ボランティア活動に興味があるから」「他の人の役に立ちたいから」の2項目と、報酬に関する「何らかの報酬を得たいから」「記念品などがもらえるから」「他の人から認められたいから」の3項目であった。最小有意差法による多重比較を行ったところ「ボランティア活動に興味がある」では、20歳代以下よりも30歳代と50歳代以上が有意に高い値を示した。また「何らかの報酬を得たいから」「他の人から認められたいから」の2項目では、30歳代、40歳代よりも20歳代

以下の年代が有意に高い値を示し、「記念品などがもらえるから」では、20歳代以下の世代が他の世代よりも有意に高い値を示した。

そして、鹿屋市居住者とそれ以外の地域の居住者とで比較したところ、参加動機については自己成長に関する「自分自身が成長したいから」という項目でのみ有意な差が見られ、鹿屋市居住者の方が高い値を示した。

### 5) イベントコミットメントの性別、年齢別、居住地別による比較 (図2)

性別による比較では、「このイベントはボランティアとしての能力を十分に引き出してくれる」の項目で

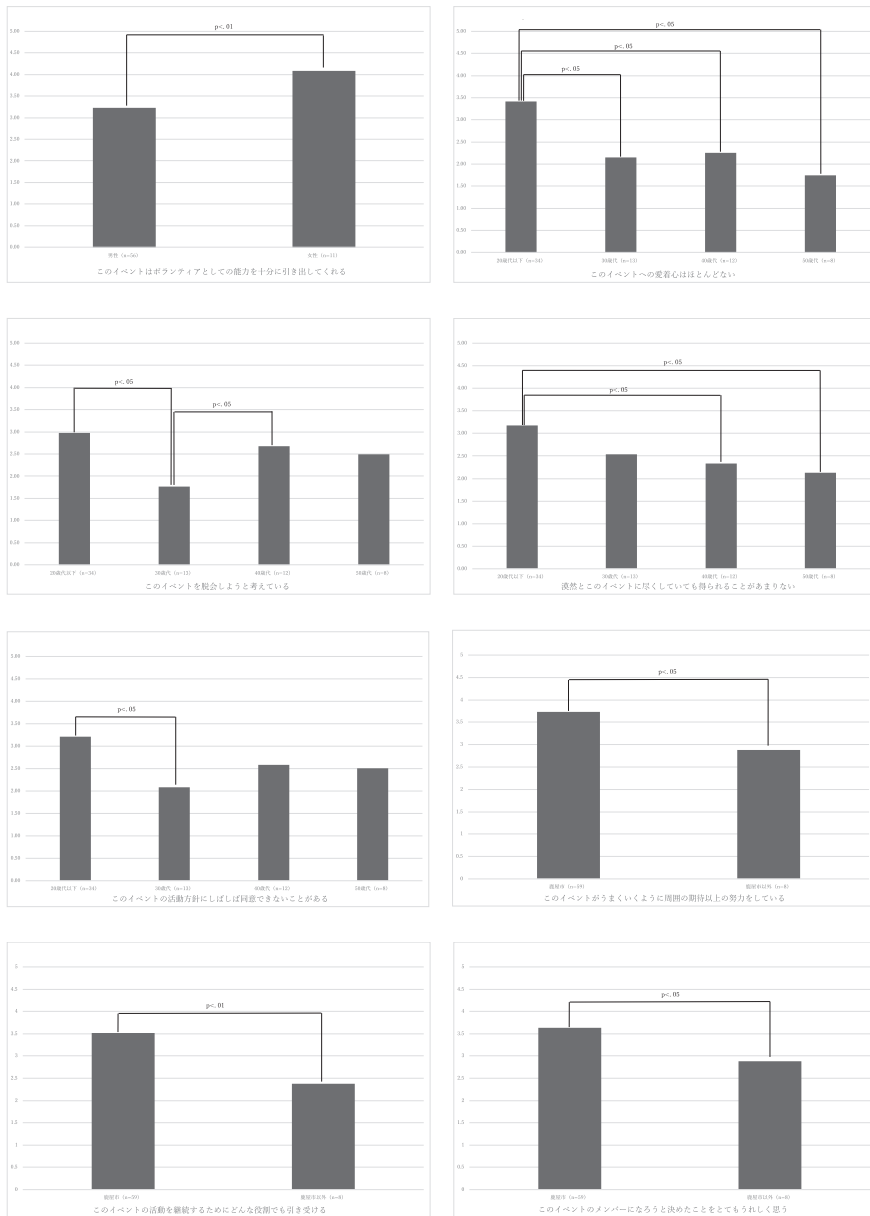


図2 イベントコミットメントの性別、年齢別、居住地別による比較

男性よりも女性の方が高い値を示し、1%水準で有意な差が見られた。

また年代別による比較では、「このイベントへの愛着心はほとんどない」「このイベントを脱会しようと考えている」「漠然とこのイベントに尽くしていても得られることがあまりない」「このイベントの活動方針にしばしば同意できないことがある」の4項目で有意な差が見られた。最小有意差法による多重比較では、「このイベントへの愛着心はほとんどない」の項目で20歳代以下の年代が他の年代よりも有意に高い値を示した。「このイベントを脱会しようと考えている」の項目では20歳代以下と40歳代の年代が30歳代よりも有意に高い値を示している。「漠然とこのイベントに尽くしていても得られることがあまりない」では20歳代以下の年代が40歳代、50歳代以上と有意に高い値を示した。「このイベントの活動方針にしばしば同意できないことがある」でも20歳代以下の年代が30歳代よりも有意に高い値を示した。

居住地による比較では、「このイベントがうまくいくように周囲の期待以上の努力をしている」「このイベントのメンバーになろうと決めたことをとてもうれしく思う」の項目で5%水準で、「このイベントの活動を継続するためにどんな役割でも引き受ける」の項目で1%水準でそれぞれ有意な差が見られ、いずれにおいても鹿屋市居住者の方が高い値を示した。

## 考察

### 1) 参加動機

全体としてスポーツ、あるいはイベントへの興味や関心に基づく社会的な貢献によるものが強い動機として働いている様子が見られる一方、ボランティアとして参加することによって何らかの報酬を得ようとする態度は弱いことが示されている。平均値に男女間での差は認められなかったものの、男性の方が女性よりも報酬を期待する態度が強い傾向が窺えた。

年代間による差異としては、20歳代以下の若い年代においてはボランティア活動に対する関心や他者の役に立ちたいというような社会貢献としての参加動機が他の年代に比べて弱く、参加によって得られる報酬や他者承認欲求による動機が他の年代よりも強いことが明らかになった。

居住地間の差異としては、有意ではないものの鹿屋市以外のボランティアの参加動機として依頼によるもの

のが鹿屋市のボランティアよりも強い傾向が見られた。また、社会貢献やスポーツに対する関心や、参加者を支援したいという態度は鹿屋市在住者の方が強い傾向が示唆された。

### 2) イベントコミットメント

イベントコミットメントに関する項目では、6つの逆転項目を除く9項目で平均値が3.0以上を示していた。また逆転項目も全て3点未満の値を示しており、サンプルのツール・ド・おおすみに対するコミットは比較的強いと考えられる。男女間での差はほとんど見られなかったが、男性よりも女性の方がボランティアとしてイベントに取り組むことで自分の能力が十分に発揮できていると感じている様子が窺える。年代別では、ネガティブな態度を表す4つの逆転項目で有意な差が見られた。傾向としては若い世代、特に20歳代以下の世代のツール・ド・おおすみに対する愛着心は他の年代よりも弱いことが示され、ボランティアとして参加することに対する不満が他の年代よりも高いことが見て取れる。こういったことから、ボランティアとしての関わりを止めようとする態度も他の年代よりも高い。

居住地域による差異としては、鹿屋市居住者の方が鹿屋市以外の居住者よりも強くコミットしている傾向が窺え、特にツール・ド・おおすみを成功させるために積極的に活動に取り組む態度が強いことが明らかである。

### まとめ

本稿では、地域スポーツイベントのボランティアについて、鹿児島県鹿屋市を中心に開催されるサイクルイベントである「ツール・ド・おおすみ2018」のボランティアを対象として質問紙調査を行い、その参加動機とイベントコミットメントを検討してきた。その結果、参加動機としてはスポーツやイベントに対する関心から社会的貢献を果たしたいということが強い動機として働いていることが明らかになった。また、この社会貢献を果たすという動機は若い世代では弱く、逆に報酬や他者承認の欲求による動機が強いことが明らかになった。年代間による差異はイベントコミットメントでも見られ、若い世代のイベントへの愛着が弱く、他の年代に比べてネガティブな態度を示していることが明らかになった。

このように若い世代が積極的な参加動機を持たずイベントに対して相対的にネガティブな態度を示していることは、イベントの継続的な開催を考えると早急に対応が求められる。鹿屋市を中心とする大隅地域の高齢化は急速に進行しており、スポーツイベントでの地域活性化のためには若い世代が積極的に関与することが重要である。そのためには、「ツール・ド・おおすみ」を魅力あるイベントに作り上げ、若者をはじめとする地域住民が積極的に関与したくなるような価値を付加していくことが求められよう。イベント自体の価値を高めることで、自ずと参加者数も増加することが期待できる。サイクルイベントが全国各地で多く開催される中、どのような付加価値を持たせていくのかが実行委員会に課せられたこれからの課題といえよう。

本稿は2018年度重点プロジェクト（CASE）の一部である。